

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294200536		
法人名	株式会社宇宙SORA		
事業所名	グループホームファミリア西脇		
所在地	静岡県静岡市駿河区西脇521番地の1		
自己評価作成日	令和2年12月14日	評価結果市町村受理日	令和3年3月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhvu_detail_022_kani=true&amp;JivovsyoCd=2294200536-00&amp;ServiceCd=320#title06">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhvu_detail_022_kani=true&amp;JivovsyoCd=2294200536-00&amp;ServiceCd=320#title06</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 3年 1月 25日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

基本理念とホーム理念を基に一つの家族として、常に「尊敬・感謝」の心を忘れず、入居者の皆様が地域で大切な人と楽しく過ごせるように地域の皆様との交流を大切にしています。新型コロナウイルス感染症のため、年明けの「どんど焼き」(無病息災祈願)に出かけて以来地域の方々と交流が途絶えています。それでも、植木の剪定や古新聞の提供、ウエスを作って下さる等いろいろな形で関わって頂いています。「来年は今年出来なかった分沢山の行事が出来るように祈っています。」とコメントをいただきました。地域の方々に支えられている事を改めて実感します。また、ご家族様にもご不便をおかけしていますが、ご理解と御協力をいただき事業所全体で感染予防に努めています。建物入口の花壇が畑に変身しました。農家をしていた入居者様が目を丸くして何かを訴えてきました。言葉ではなく気持ちが伝わったように感じました。これからもご家族様の思いや、その人がその人らしく生活を送れる為に考えるケアの実践に取り組んで参ります。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は掃除が行き届いていて、ベッドメイキングもしっかり行い、「いつだれが見てもキレイに！」をモットーにしている。リビングも整頓され、物置の中の物は内容が明記され、わかりやすくなっている。管理者は会社のグループホームの研修部長をしているので、留守にすることが多いが、職員は「報・連・相」をしっかり行い、コミュニケーションが取れている。また、管理者や職員は常に利用者ファーストで利用者の気持ちに寄り添うように指導していて、守られている。コロナで外出が困難な状況ではあるが、車中ドライブをし、月の行事を企画運営し、利用者に少しでもメリハリのある生活を送ってもらえるよう工夫している。事業所は地域住民との交流が盛んで、近くの住民や新聞店が新聞紙やウエスを持ってきてくれ、野菜作りの指導をしてくれるなど、運営推進会議には多くの参加者が集まり意見やアイデアをだしてくれる。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念は事務所に掲示し常に目に入るようにしている。朝の申し送り、ホーム会議の時には理念の唱和を行い職員の周知を保っている。新人職員には管理者がオリエンテーションを行い、基本理念を基とし仕事への姿勢やマナー、モラルについて教育を実施している。	「SORAグループ基本理念」があるが地域との関係を大切にしたいとの思いで3年前に「ホーム理念」を加えた。申し送り、会議の前に職員で唱和し、初心に立ち返っている。新人研修は3か月をめぐりに行き、「わからないことは聞く」姿勢を大切にしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加していく中で、ホームが地域の一員であることを理解して貰えた。地域の方々には行事の度に快く出迎えて下さる。また、ホームの行事にも大勢の方が手伝い、参加する事で入居者とも交流ができています。今年、交流も自粛中。	平時は、盆踊り、どんど焼、防災訓練等の地域の行事には利用者と職員が参加していた。夏祭、クリスマス会、七夕、運動会等の事業所の行事には地域の方が協力、参加してくれたり、近くの新聞店が新聞紙を持ってきてくれたり、野菜作りの助言をもらったり交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の避難訓練の参加を通して、施設の特性を生かし社会貢献の一環として、中学生の福祉現場での体験を行っている。高齢者の方とのコミュニケーションや車いす体験(乗る・動かす)等を行っている。毎年行う事で、学校の福祉体験として定着している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の会議が4月はコロナウイルス感染予防のため中止となる。その後2ヶ月毎月開催。必要なメンバーが出席している。日常のサービスの取組を報告し、意見交換をしている。また、議題として利用者や地域にも関連ある感染予防対策について話し合っている。	行政の指導で今年度は4月が中止、6、8、10月は施設の外で行い、12、1、3月は書面開催の予定である。参加者は町内会長、民生委員、ふれあいサポーター員、薬剤師、家族、地域サポーター、地域包括支援センター職員で事業所の現状報告をし、活発な意見交換を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者が中止の場合の書面会議その他等について質問事項に協力的で時間をかけて相談にのってくれている。介護相談員の訪問は感染予防対策もあり今年度4月から訪問中止となっている。また、福祉事務所も入居者の事で連携を図っている。	運営推進会議には市の職員が年に1回出席する。事業者指導課の担当がコロナ対策などのわからないことや質問には丁寧に答えてくれる。生活保護者の関係で福祉事業所との係わりがある。運営推進会議の議事録の内容についても行政から細かい質問がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0宣言を掲げている。身体拘束廃止に関する指針に基づき、リスクマネジメント委員会が3ヶ月毎に会議を行っている。職員から拘束にあたるかも知れない疑問点を上げてもらいそれに対しての具体的な例を掲げそのうえで管理者の適切な指導を行っている。	指針は会社が整備してくれ、職員は休憩時間に目を通して見ている。指針に基づいた研修も行い、委員会の職員が中心になり、3か月に1度研修を行っている。最近事例の対応について話し合い、運営推進会議でも会議の内容を報告して意見を伺っている。	

静岡県( )

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	普段行っている言動が入居者様にどのような影響があるのか、虐待ではないのか等をミーティングで話し合う機会を設けている。更にチームケアを意識しストレスの少ない職場環境作りを目指している。場合によっては、個人面談を行っている。それが虐待防止に反映している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社会福祉協議会の資料は制度が分かりやすく書いてある。成年後見制度を利用している入居者様もいるためミーティングで資料を基に研修を行い学び理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、読み合わせの途中でも不安や疑問点があれば理解・納得できるよう時間をかけて説明を行っている。契約時、家族の都合で時間の余裕がない場合、日程を調整したり、事前・事後に説明を行い安心して入居できるよう配慮している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様に変調がみられた場合、随時家族へ連絡し状況を共有できるようにしている。また、面会時には、近況報告を行い、意見・要望等があった場合は真摯に受け止め運営に反映させている。家族会開催時は、日々の生活振りを感じていただき意見交換を行っている。家族会中止中。	家族会は年に1回開催し半数以上の参加があり、家族ごとの面談をしていた。常に電話で利用者の詳細を伝え、家族がお小遣いを2か月に1度持って来てくれるのでその時にも話をしている。担当者がコメントを書いた手書きのお便りを毎月発送している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	環境整備・感染対策・防災・リスクマネージメント等の委員会は職員がいずれかに所属し、施設運営の一環として責任感を持ち仕事の一部としてお互いに意見交換ができる時間(ホームミーティング)を設けている。管理者は個々の面談等で意見を出せる機会を作っている。	職員は委員会に所属し、ホームミーティングで意見交換を行い、時には研修をする。半年に1度、職員は管理者と面談をし、不満やストレスをためないようにしている。新人職員には管理者が毎日声をかけたり、「報・連・相」を徹底するように指導している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	労働意欲の向上に繋がるものとして、資格手当、残業手当の他に一年に一回の昇給を行っている。休日も事前に確認し希望する休みが取れるよう働きやすい環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員同士が意見を出し合い、協力してケアができるよう人材育成に力を入れている。また、個々のケアの実際の把握に努め、能力に応じた支援を行っている。職員一人ひとりの個性を大切に働きやすい環境作りに努め、外部・内部研修に参加し学ぶ機会も勧めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議に出席し多種職の方々と意見交換を行っている。今年度は感染予防のため、出来ていない。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の基本情報を基に、ご本人の意向を確認しながら安心して生活できるよう支援に努めている。入居後は環境も変わり不安が多い為、見守りや声掛けを密にしながら新たに見える情報収集を職員間で共有し連携を図っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の施設見学時は管理者が対応している。面談を行い、ご本人やご家族の困っている事・不安に思っている事など情報を収集し、安心して入居できるよう関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	生活する中で要望されているサービスの提供が出来ているか評価・見極めを行い、他のサービスが必要な場合は御家族と相談しながらご本人にとって良い方向を検討し実践している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念の中にある「共に学び、共に支え、共に歩む」を基本に日々の関わりでなじみの関係が出来ている。その人が出来る・できないを見極めながら、出来る事をお願いし、出来ない事は一緒にできるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	感染症予防のため、ご家族様の訪問時は玄関先での対応になっている。日頃の様子はホーム通信でお知らせし、ご本人に身体的・精神的に変化があった場合は随時報告し情報を共有できるようご家族とコミュニケーションを図っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	例年は御家族は勿論、友人、知人も気軽に訪ねて来られている。ご本人の兄弟・姉妹、親戚も自由に来訪されている。入居者は地域の方が多く知り合いが多い為、地域の行事に参加し関係の継続に努めている。今年度は相互に自粛中。	玄関は常に開放している。利用者は近隣の人が多いためコロナ前は家族や知人が気楽に訪れたり、地域の住民も気楽に訪問してくれていた。また、近所の方の高齢者関連の相談にもものっている。積極的に地域の行事に参加し関係が継続するように努めている。	

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの個性を大切に、入居者同士の関係性を把握し穏やかに生活ができる様に時には席替えも行っている。また、共通で楽しめるレクリエーションや馴染みの音楽(歌)等を通して孤立しないよう支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居時の長時間による関わりで得た信頼関係を大切に、契約が終了してからも必要な時に連絡を頂いている。相互に相談しあえる関係を継続できる様に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者本位の暮らしを尊重し、一人ひとりの思いを受け止めるよう努めている。また、認知症の症状に合わせ、それが一人の個性として捉え安心して生活できるよう、その人らしく暮らして行けるよう対応に努めている。	理念にあるように一人一人常に互いを尊敬する心を持つようにしている。カンファレンスでかわり方を話し合っていて、「ケアの統一法」を職員の発案で作成して、職員のレベルに差があっても同じケアができるように毎日チェックし、一か月に1度内容を見直している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメントで生活歴や気質、能力等の情報を周知し、ホームの生活に慣れ親しんでいるのか日々の利用者の様子や申送り、担当者会議で職員間で情報を共有している。特に入居直後は不安にならないよう見守りや声掛けに配慮している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の状態が継続して生活できるように、リハビリ体操(音楽に合わせたリズム体操)を毎日行い、日々の生活で、出来る事・出来ない事等その人の有する能力を把握し、眠っている能力が開花できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護保険証の更新、プランの更新、体調の変化(骨折等)時、計画書作成前にモニタリング・担当者会議を行う。事前に入居者担当者がアセスメントを行いそれに基づき出席者(ケアマネジャー、ユニットリーダー、職員)が話し合う。御家族には、面会時や電話で説明し話を伺っている。ケアマネジャーが最終計画書立て、ご家族、本人に説明・同意を得、署名をいただいている。	介護計画書はケアマネジャーが作成するのではなく、職員が関わって作成するものという考えで、更新時に担当者がアセスメント表を書き、月の会議の初めにカンファレンスをし、「担当者会議シート」に記録し、モニタリングも職員全員で行っている。そのことによって職員は実際に行うケアが理解できている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や排泄記録、バイタルチェック表を活用し、情報の共有に努めている。カンファレンスを行い、個々の優先すべきニーズを「ケア統一表」を用い実践している。また、毎朝の申送り時、日々の変化の情報を共有し介護計画書の見直しに活かしている。		

静岡県( )

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	生活過程で新たなニーズ(容態の変化等)に対して、ご家族に相談しながら、福祉用具やマッサージ、外部医院の受診等の支援に柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員の働き掛けにより、住民の方々が地域の行事参加を受入れ、入居者の皆様を大切に下さり豊かな暮らしの支援を受けている。また、ホームで必要なウエスを作って持って来てくれたり、植木の剪定まで援助して下さっている。地域資源の大きさを実感している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前の関係の継続を大切にしてご本人やご家族の希望を優先している。今までの掛りつけ医を継続されている方もいる。施設提携医は月2回の往診と緊急時も往診が可能。24時間体制で電話でも対応してくれている。随時対応し医療が受けられ安心できる支援体制が整っている。	協力医は月2回の往診で、24時間、緊急時も直接医師と相談ができる。入居前の主治医の受診を継続している利用者も月に2回往診をしてもらっていて緊急時も対応可能である。医師、薬剤師と事業所は良い関係ができていて職員は安心して利用者の支援ができる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者、職員は日常のケアの様子を職場内看護職に伝え健康チェック、爪切り等の看護処置を受けている。訪問看護師に相談した場合は医療と直結しているため往診や薬、点滴治療等の処置が受けられ適切な支援ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者の入退院時は病院の担当看護師・相談員と連携し早期に退院ができるよう、病院、家族、施設で話し合いの場を設け情報を共有し安心して退院を迎えられるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	御家族には、契約時重要事項説明書にある「重度化した場合の対応に関わる指針」を讀み合せし、内容に基づき、今後容態の悪化がみられた場合、医師、家族、施設で話し合い、施設で出来る看取りの方向性も含めて三者で連携していく旨を伝えている。	契約時に「重度化した場合の対応にかかわる指針」を讀み合わせ、同意を得ている。医師が看取り期の判断をすると、家族を呼び、医師から現状の説明を受け、医師、家族、事業所で話し合いを行い支援している。看取りの研修はホーム会議の中で1年に1回行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の緊急対応が発生した場合は、職員全員が対応できるよう説明や訓練を行い実践できている。消防署の書式「緊急搬送時の情報提供シート」や「患者基本情報シート」を記入し迅速な対応ができるよう個人台帳で管理している。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震発生後の火災を想定した訓練を実施しており消防署にも協力いただき実際に火災が起こった際の手順を把握している。緊急連絡網を作成しスタッフがいち早く周知出来るように対策している。また、独自のミニ防災訓練は、貯水バケツの水の点検、防災用品のチェック、避難通路の確保・整理整頓等を行っている。	3か月に一度、防災委員が防災用品のチェック、避難経路の確認、緊急連絡網の訓練等のミニ防災訓練を計画実施している。地域の防災訓練に中学生が参加してもらえるように提案し実現したが、今年度はコロナで中止になった。地域との協力体制もできている。備蓄には名称や期限等が明記してある。	水害や長期停電等、災害の種類が近年多様化しているため、防災委員を中心に災害を想定し対応を話し合い、また、本部と発電機の整備の検討等を進める事を期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者のADLに差があるため、その方に合わせた声掛けをしている。出来ない事や失敗があっても自尊心を傷つけないよう寄り添い励まし時には褒めて誇りを失わないよう対応している。常に受容・傾聴・共感に心がけるよう努めている。	法人の理念「常に互いを尊重し」を基に利用者個々に合わせた声掛けを実践している。職員同士でお互いにできているかチェックするようにしている。職員の声掛けは語尾まではっきり言うようにしているが優しさは感じられる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	傾聴しやすい雰囲気作りや声掛けに努め、上手く言葉に出来ない入居者様には、表情などで察するよう努めている。その時の状況説明が可能な方には、本人が納得できる様話をさせていただくなど自己決定できる支援を行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の性格や個々の生活のリズムを理解しそれぞれのリズムやペースに合わせた声掛けをし、耳を傾けながら、その人らしい過ごし方を尊重している。プランに沿った入居者様主体のケアを心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	3ヶ月に一度訪問美容にてカットを行っている。衣類は、自分の好みの服を選べる自立支援に努め、出来ない方にはその人らしい服装を身に付けられるよう支援している。また、メイクや整髪など女性らしさを失わないよう声掛けや支援に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食のメニューや写真を壁に貼り、時には献立を伝えることで食べ物の話が話題作りとなり盛り上がる。食事が楽しみになるよう配慮している。盛り付けを丁寧に行い目でも楽しんでいただくよう心掛けている。	献立とその写真が貼り出されている。食材を配送する業者は季節や行事に合わせた献立作りをしている。月に1度、朝食をパンにしている。利用者はトレーを拭いたり、おしぼりをたたんだりできることを行ってくれる。月に3回、手作りのおやつを準備し、利用者に好評でリクエストも出ている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	常食やミキサー・刻み食など入居者様の状態に合わせた形態で提供している。嚥下状態に合わせてスプーンの大きさを変え自分で食べられるよう支援している。水分の進まない入居者様が多く、声掛けを強化しつつ無理強いはいないように配慮している。		

静岡県( )

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。自分で出来る方には声掛けで促し清潔が保てるよう支援している。出来ない方は、歯ブラシやスポンジブラシを使用し介助でケアを行う。歯の痛み、義歯の調整等、歯科往診で診てもらった環境が整っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンをチェック表を用いて把握している。約2時間毎に声掛けに配慮しながらトイレ誘導を行っている。便意・尿意のない方には、羞恥心に配慮しながら洗浄し清潔が保てるよう支援している。	排泄チェック表に記録し、利用者の排泄パターンを把握している。おおよそ2時間ごとにはトイレ誘導の声かけを行い、時間にかかわらず、トイレに行きたい要望には応じている。夜間のトイレへの声かけは睡眠を妨げないように状態に合わせて対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	車椅子利用の入居者様が多く運動量に限りがある。服薬による排便コントロールしている方が多い。排泄チェック表を確認しながら、医師に相談しその人に応じた薬の調整を行っている。毎日体操で体を動かし水分摂取量を気にしながら便秘解消に繋げている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には入居者様全員が平等に入浴できるよう入浴チェック表がある。身体状況や拒否等があると日や時間をずらし心地よく入浴できるよう配慮している。また、拒否の方には特に声掛けに注意し、スムーズに入浴できた場合の情報を共有している。	入浴チェック表を用いて、利用者が週に2回～3回は入浴ができるようにしている。毎日湯を沸かし、その日の利用者の状態でいつでも対応できるようにしている。入浴拒否の利用者の対応は気づいたことを職員同士で共有し、ケアの統一を図っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活パターンを尊重し、日中居室で一人で過ごす時間も大切にしている。閉じこもりや活動低下にならないよう適時声掛けさせていただき、メリハリのある支援を行っている。就寝前は、皆でお喋りしながらテレビ鑑賞し個人の就寝時間を尊重している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は、朝・昼・夕・眠前の薬を入れる色別ファイルと、入居者様の名前が貼ってあるポケット付きシートを使い個々の薬の選別を行っている。服薬介助時は、名前・日付・を点呼し服薬ミスを防いでいる。薬は掛りつけ薬剤師が管理している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの能力を把握し、その方に合った作業やレクリエーションができるよう声掛けしお願いしている。お手伝いをして頂いた際は、感謝の気持ちを伝え遣り甲斐を感じられるよう支援している。又季節を感じられるような手作りおやつやイベント企画し楽しんでいただいている。		



静岡県( )

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウィルス感染症予防のため、ご家族との外出や地域行事、散歩など外出ができない為、四季折々の季節を感じていただけるようドライブを企画している。車中からでも、喜びの歓声を上げて喜んでいる。今の状況下で楽しめる事を支援している。	コロナ対策で地域の行事や外出、外食に行けず、散歩も極力控えている。ベランダや陽当たりの良い居間や敷地内の花壇前で外気浴をしたり季節を感じられるように車中ドライブを実施したり、事業所内で季節の行事を行って利用者が楽しめるようにしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時よりお小遣い金は管理者が預かり、責任を持って管理している。出納の際も、ご家族に事前に連絡、不明瞭な買い物が発生しないようにしている。お金の所持は無くとも安心して過ごして頂けるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様から「電話をかけたい」等の希望があった場合、ご家族へ連絡し状況確認・考慮して取次ぎを行う。また、頻繁に希望される場合は、安心して落ち着いて過ごしていただけるよう声掛け支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関はいつも開放し、共用の空間のテーブル・床・手すり等は、毎日ジアンク清掃を行い清潔保持に努めている。施設壁面には、入居者様と一緒に作成した絵筆の作品を展示したり、季節に合わせた掲示物を飾り季節を感じて頂けるようにしている。	朝11時に共用の場所を念入りに清掃し、汚物の臭いも気を付けている。入り口近くのプランターには季節の花が、畑には白菜や大根が成長していた。玄関、エントランスには生花が活けられ居間には季節を感じる掲示物が飾ってある。また、行事やレクリエーション、車中ドライブの利用者の笑顔の写真が掲示されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様が目自由にテレビを観たり談笑できるソファを配置し集まれる場所を設けている。車いすの方もソファでリラックスして過ごせるよう配慮している。また、中には自室で昼寝や読書、音楽を聴く等している。一人の時間も大切にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、入居前の生活の中で普段使い慣れた家具や写真、仏壇など持って来て頂いている。いままでの生活感を大切にしながら、落ち着いて過ごせる自分らしい生活空間づくりができるよう配慮している。	備え付けの整理ダンスの他に家から持ってこられた鏡台や仏壇、桐のダンス、衣装ケース等が利用者の動線を確保して置かれている。清掃が行き届いていて、ベッドメイキングもきちんとしていて利用者に合わせた部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全面には十分配慮し、声掛け見守りしながら、その人が出来る能力に応じて支援を行っている。介助が必要な方には過度な介護にならないよう気を付けて安全面に配慮した自立支援に努めている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2294200536		
法人名	株式会社宇宙SORA		
事業所名	グループホームファミリア西脇		
所在地	静岡市駿河区西脇521-1		
自己評価作成日	令和2年12月14日	評価結果市町村受理日	令和3年3月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2294200536-00&amp;ServiceCd=320#title06">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2294200536-00&amp;ServiceCd=320#title06</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 3年 1月 25日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

基本理念とホーム理念を基に一つの家族として、常に「尊敬・感謝」の心を忘れず、入居者の皆様が地域で大切な人と楽しく過ごせるように地域の皆様との交流を大切にしています。新型コロナウイルス感染症のため、年明けの「どんど焼き」(無病息災祈願)に出かけて以来地域の方々と交流が途絶えています。それでも、植木の剪定や古新聞の提供、ウエスを作って下さる等いろいろな形で関わって頂いています。「来年は今年出来なかった分沢山の行事が出来るように祈っています。」とコメントをいただきました。地域の方々に支えられている事を改めて実感します。また、ご家族様にもご不便をおかけしていますが、ご理解と御協力をいただき事業所全体で感染予防に努めています。建物入口の花壇が畑に変身しました。農家をしていた入居者様が目を丸くして何かを訴えてきました。言葉ではなく気持ちが伝わったように感じました。これからもご家族様の思いや、その人がその人らしく生活を送れる為に考えるケアの実践に取り組んで参ります。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

--

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念は事務所に掲示され、申送りの前に唱和している。職員は周知できてる。その理念に基づき常に意識を持って実践する事を心掛けている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年はコロナウィルス感染症流行のため、地域の方々の来訪も減っているが2ヶ月に一度の運営推進会議で現状報告を行い交流していたが、現在書面会議となっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度は地域の方々に直接的なことは発信できていないが、ホームの空段ボールは町内資源として回収してもらっている。また、集まった新聞・雑誌・段ボール等の回収作業時は地域の一員として当番になっていて、地域の方々と一緒に積み込み作業をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回運営推進会議を行い日々の様子について近況報告として日々の様子を細かく報告し内容により話し合いに発展し、その事について対策まで意見が出され、その後の支援にいかしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者の方には質問事項があれば随時連絡し回答を得ている。介護相談員は感染症予防対策のため活動自粛中。また、福祉事務所の担当者の方とは、入居されている方について連絡のやり取りができています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止に関わる指針に基づき2ヶ月に1度リスクマネジメント委員会により身体拘束について研修を行っている。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「これは虐待にあたらないのか？」と疑問に思う事も気づきの一つであり、ミーティング等で職員間で意見交換を行い、どのような対応をすべきであるかを学び、チームケアの統一を図っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティングで制度のについて学び理解を深めている。日常ケアについては、カンファレンスや担当者会議において、入居者様の自立支援について話し合い、特に意識して支援に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、時間をかけて読合せを行い、ご家族・ご本人が納得して不安なく入居できるように十分な説明を行い、理解いたいたうえで入居に至っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム入口にご意見・ご要望等を書いて入れるボックスを設置してある。苦情等も外部者へ表せることが契約書に記されている旨を契約時に説明を行っている。日々の生活の様子を適時連絡しご家族の意見を伺い確認した上でケアに活かしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者と職員は個別に意見や提案を行えるようにしている。「防災・リスクマネジメント・感染対策・環境整備」などの各委員会も設置し、施設運営に関わり意見交換している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当や残業手当の支給、また、2年毎、努力や勤務状況により昇給も行っている。労働意欲の維持・向上に繋がるよう社員・パート区別なく条件を整備し働きやすい環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は管理者には人材育成の大事さを指導している。管理者は、個人の能力と力量を把握し指導やサポートを行っている。研修は、外部研修を受けられない(感染症予防)ためミーティングを利用して内部研修を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のケア会議等に参加し多種職の専門職と意見交換を行っていたが今年度はコロナの為にできていない。また、同業者との交流もできていない。交流会担当者は今後はオンラインでの会議も検討しサービスの向上に取り組む方向と話す。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様と積極的にコミュニケーションを図り信頼関係を築いていけるよう心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご本人の様子やご家族の要望・思いを伺い、入居後も1ヶ月は声掛けや見守りを密にし情報収集を行い、入居後の不安が無いように、ご家族ともコミュニケーションを密にして信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期対応として必要なサービスの見極めを行い、その上でご本人にとって良い方向に向かうよう福祉用具等の他のサービスを利用する等支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	選択物たたみを一緒に行いできる事は積極的にやっていただけるよう支援している。また、朝のレクリエーション活動を通じて入居者様と良好な人間関係を築いていけるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	感染症予防の為、玄関で面会を行っているが職員も寄り添い会話が弾むように環境を作っている。ほとんどの方が難聴のため間に入り話を繋げ理解できるように支援している。時間をみてご家族とご本人様だけで会話出来るように配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	例年は地域の行事に参加し地域の一員としての関係が途切れないよう支援につとめているが今年度は感染症予防のため、地域との交流が中止になっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様が安心して生活できるよう、一人ひとりの症状に合わせた支援を行っている。また、個々の個性を大切にしながら、共通のレクリエーション等を通して関わり合える生活支援を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居中、ご家族様が安心できるサービスに努め信頼関係を築いている。契約が終了しても必要であれば相互に連絡を取り合える関係ができるよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の思いを大切に、共同生活の中でもその人らしい生活を送れるよう、思いや意向の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活環境などの情報を周知しホームでの生活に馴染んでいただける様、日々の送りや会議で情報交換し支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方や心身の状態に合わせ適切な支援方法を考えケアの統一表を使い職員全員で実施している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画更新時は各入居者担当者が事前にあセスメントを行い計画担当者がモニタリング、担当者会議を行い課題やケアについて話し合いそれぞれの意見を計画書に反映している。容態急変時は、ご家族、医師、看護師等を交え担当者会議を開催し現状に即した計画を立てている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録を基に、毎朝の送り時、夜勤者から管理者、当日の日勤者に前日の様子を伝え情報の共有やケアの統一・工夫を行っている。また、職員間では送りノートを活用し周知に努めている。		

静岡県( )

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お客様本位の暮らしや状況を尊重し、その時必要な支援を行っている。具体的には、外部医療受診の際タクシーの予約や、福祉用具の相談・手配、看取りや死後に必要な手配等を柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会長、民生委員、地域住民の方々との連絡を密にし施設周囲の環境づくりご協力いただいている。今年度は施設の行事への参加や地域イベントの参加が出来きていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前の掛りつけ医も家族の希望を受入れ継続して医療が受けられるよう支援している。施設提携医は月2回定期往診を実施。容態急変時は個別往診をしてくれる。また、24時間体制で緊急時の相談に医師が応じてくれている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回当施設看護師による健康チェックや処置等の指導を受け医療機関との連携を図っている。また、点滴や注射等の医療行為は提携医の看護師が訪問し処置を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院に至るまでの状況・情報伝達を正確、迅速にできるよう心掛けている。また、スムーズに治療され早い退院が可能になるよう医療と情報交換している。また、退院後のケアについて、本人・家族、提携医と退院後の身体状況に合わせたケアができるか等の話し合いをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時「重度化に至った場合の対応に関わる指針」により十分な説明を行っている。容態悪化に至った場合、家族、医療、薬剤師、施設等で担当者会議を開き話し合っている。看取りの希望の確認を得たうえで同意書を取交し全体で支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の指定用紙「救急搬送時の情報提供シート、患者の基本情報シート」を事前に作成し緊急に備えている。職員は初期対応ができるよう日々管理者から指導を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震による火災発生を想定した総合訓練を年2回、施設独自のミニ防災訓練を3ヶ月に1回行っている。地域の方には連絡網を回して下さる等の協力を得ている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の個性を大切にしている。例えば、入浴居否時は時間を置き再度声掛けする等、人格、尊厳を十分に考えプライドを傷つけない声掛けに配慮している。また、幼稚性を排除し、人生の先輩として敬う姿勢を忘れないよう心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	家族の和を基とし、本人の希望や要望が出しやすい環境で生活できるよう配慮している。時には入居者様同士の言い合いがあってもその場だけであり、自分の気持ちを表出できることは本人にとって馴染の関係が出来ていると捉えている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活のリズムを尊重し自己のペースで自宅で生活していると感じられるよう見守り、危険性が無い限り自由に過ごせるよう配慮している。「まだねたくない。もうねる！まだ起きたくない。昼寝をする。」等々希望を受容し支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	3ヶ月に1回、訪問美容の方が来てその人に合った(希望に沿った)ヘアカットをしてもらっている。衣服は自分で選んで着脱されている方もいる。また、お化粧を毎日楽しめる方には、家族の協力を得て支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備で、おしぼりを巻いてもらう、テーブルを拭く、エプロンを用意するなど手伝ってもらっている。出来ない方には献立を伝え話題性を広げ食事が楽しみになるよう配慮している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は個々の状態に合わせ、刻み、ミキサー、普通食等、食べやすい形状にて提供している。日中の水分摂取量が少ない方は1日24時間で考え、夜中に開眼された時に提供するなど工夫をしている。		



静岡県( )

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施し口腔内のチェックも行っている。また、義歯の方は、毎晩義歯洗浄剤に浸し衛生管理を行っている。口腔内に移乗がみられた場合、訪問歯科へ依頼し対応している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて、個々の排泄のリズムの把握に努めている。トイレ誘導を定期的に行い、その方に合わせた支援を行っている。陰部洗浄はその都度実施し清潔保持に努めている。トイレが頻回な方にも、その都度トイレ誘導シートの使用軽減に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取に気を付け、毎日レクリエーションで体操などを行い運動を働きかけている。便秘症の方は主治医に相談し服薬による排便コントロールを行っている。排泄時は便の状態を観察し記録している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には入居者の皆様の衛生面を重視し入浴チェック表を用いて定期的には入れるように配慮している。入浴拒否のある方にはその方の入浴情報の記録を共有しその方に合わせた誘導を試み拒否なく入れるよう努めている。状態により、朝、夕の時間に拘らず入浴が出来るようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、レク体操や脳トレなど活動的に過ごしてもらい、食後はゆっくり穏やかな時間を過ごしてもらうことで、メリハリのある時間作りができている。夕食前からは就寝に向けて穏やかな環境づくりに努め安心して入眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	月2回の往診で処方される薬・臨時処方については、専任の薬剤師が管理している。薬の用途や副作用について、また薬に対しての疑問等、常時医師や薬剤師に確認が取れ相談できる環境が整っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の一人ひとりの特徴を捉え、その方にあった作業やレクを職員と一緒にやっている。手伝いをしてもらったら感謝の気持ちを伝え、やりがいがあるよう配慮している。また、季節に合わせた行事を企画し楽しみが持てるよう支援している。		

静岡県( )

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウィルス感染症の予防の為、地域行事参加等の外出や散歩に出かけることが出来なかった。ホーム内行事を多く企画し楽しんでいただけるよう支援に努めている。外出レクとしてドライブを取り入れ、戸外に出かけたことを喜んで頂いている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣い金は管理者が預かり責任を持って管理している。欲しい物があった場合は家族へ確認し必要であれば購入させていただいている。お金の所持がなくても安心して過ごせるよう声掛けに配慮し支援に努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様から電話の希望があった場合、ご家族様の状況(仕事等)に配慮し管理者が取次ぎを行っている。頻繁に電話を希望される時は、先ず安心して過ごせるよう声掛けや思いを傾聴している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部は整理整頓し「家」らしい環境整備に配慮している。生活に密着した生の花を飾り季節感を感じていただいている。壁面には季節に合わせた入居者様の作品を掲示している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間は安全に自由に移動ができるよう危険物を置かず、入居者様一人ひとりが思い思いに過ごせるよう配慮している。自室で昼寝をしたり自分の意思で一人で過ごす時間も大切にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様には、入居時今まで使用していた物や大切にしていた物を持って来て頂けるようお願いをしている。化粧台やタンス、仏壇等も持って来られている方もあり、その人らしい生活空間で落ち着いて過ごせるよう支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全面には十分配慮し声掛けや見守りで「できる事」を確認しその方の現有能力が維持できるよう支援に努めている。半数以上は介助が必要で自立支援は難しい状態にあるが、声掛けしながら少しでも出来る事があれば一緒に行うよう努めている。		